

「地域ではじめる・地域で広げる農福連携」 地域別交流会 in 北陸農政局

令和7年8月4日（月）北陸農政局（金沢広坂合同庁舎）において、「地域ではじめる・地域で広げる農福連携」をテーマに地域別交流会を開催しました。

本交流会は、農福連携等応援コンソーシアムの全国総会に合わせて各地方農政局で開催され、北陸農政局では管内の農福連携に携わる関係者が集まり、先進的に農福連携に取り組んでいる佐賀県の事例紹介や北陸地域での農福連携の進め方などについての情報交換を目的として、オンラインを含め約50人の皆さまに参加いただきました。

日時：令和7年8月4日（月曜日）13時30分～15時00分

場所：北陸農政局（金沢広坂合同庁舎）1階「第3会議室」
（オンライン参加を併用したハイブリッド形式）

北陸農政局農村振興部都市農村交流課横内課長の挨拶に続き、ノウフク・アワード2024でフレッシュ賞を受賞された佐賀県から農福連携コーディネーター 藤戸 小百合氏をお招きし佐賀県での農福連携の取組を紹介いただきました。

農家のどういう作業に人手が足りていないかを把握することの大切さや、中間支援者は農業と福祉どちらにも寄らず中立な立場で双方を理解しマッチングすることの重要性について説明がありました。

農福連携は農業と福祉の連携で、お互いがハッピー×ハッピーになるだけでなく、地域の活性化や農地の維持など三方よしどころか五方よし（農家よし、福祉よし、消費者よし、自然よし、未来よし）の取組みで、農福連携をツールとして、地域に利益を生み出し、地域活性化につなげていきたいと締めくくられました。



佐賀県農福連携コーディネーター
藤戸 小百合氏

続いて、北陸管内の農福連携の取組について、事例紹介、意見交換が行われました。

新潟県農林水産部経営普及課朝妻氏から新潟県農林水産部が行う農福連携の取組が紹介され、農福連携受入体制づくり支援事業として、地域連携体制づくりの推進、障害者等の受入れモデルの拡大、農福連携受入れ環境整備支援を事業化して必要な方に必要な支援を届け、農福連携の横展開を図っていると紹介されました。また、令和7年度は農福連携技術支援者育成研修を開催し地元で根ざした方に受講いただき、農福に携わる人を育成して、課題は多いものの各地域で農福連携を少しずつ進めていきたいと締めくくられました。

福井県あわら市の特定非営利活動法人 ピアファーム 理事長の林 博文氏からは、地域の農業で障害者就労支援を行っている団体（農業法人、株式会社）と協力して福井県農福連携交流会の立ち上げる準備をしていることや、農林総合事務所、市町と情報交換を行いながら就労支援を通じて農福連携を広げていく取組、今後の展開として、福祉事務所が農業を進めていくときのサポートやアドバイスを行っていく取組の紹介があり、福祉で働く人たちの働く場の確保、工賃の向上、地域の農業振興に貢献していきたいと語られました。

石川県農福連携促進アドバイザーの笠間 令子氏からは、石川県の課題として、農福連携を農家が知らない、福祉事務所は農業に興味はあるが知識がなく不安で手を上げない、これらをどうクリアしていくか、農福連携の魅力をどう伝えていくかが課題との説明があり、また、行政の農業側と福祉側の連携がとれていないと思うので、年に何回か情報交換できる場を設けてはどうかとのご意見を述べられました。

新潟県上越市の一般社団法人 土の香工房 理事長の早津 薫氏からは、上越市には農業に取り組んでいる福祉事務所がほとんどなく、農協や農家からの依頼があっても受けている作業、自社の農作業が手いっぱいでは応じられないことがあり、その場合は他の福祉事務所から応援に来ていただいて福福連携のような形をとっているとの説明がありました。上越市には障害者福祉事業所が集まった組織があり、そこでコーディネーター的な事を行っているが、農業に精通した人がなかなかおらず農作業の説明がむずかしいことから、福祉の現場、障害者への理解と併せて農業の事をわかっている人の中間支援は重要とのご意見を述べられました。

最後に北陸農政局としても、農福連携の現場で活躍する皆様のご意見を賜りながら、一層の農福の推進に努めていきたいと述べ、交流会を終了いたしました。